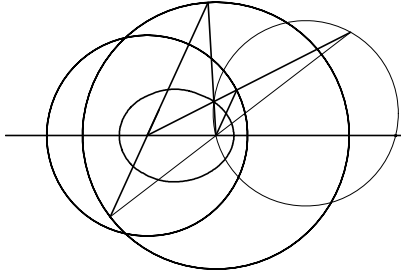


学問と感謝

その旅路

蛭子井博孝著



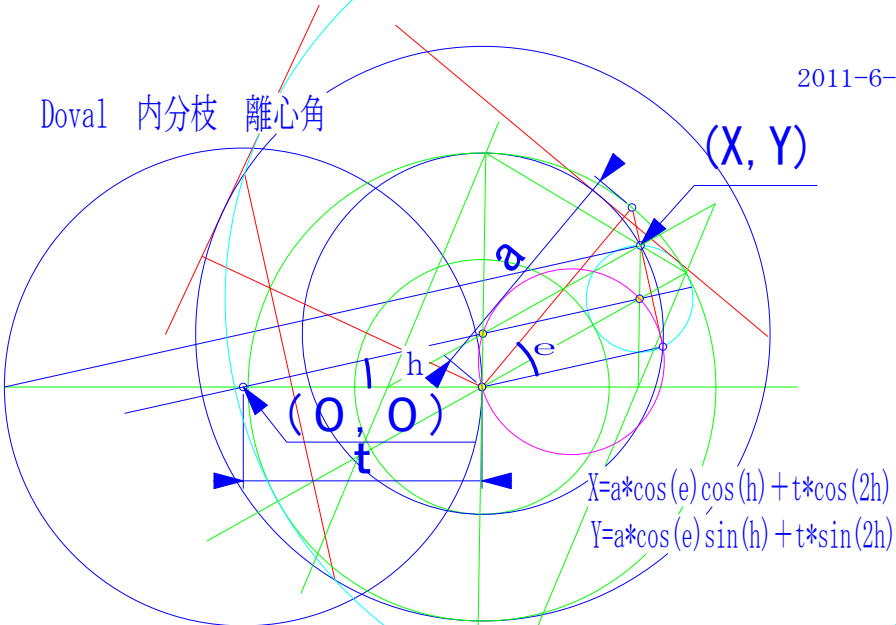
ナターシャ筆

Thinkey:<http://hoval.blogzine.jp/>

2011-6-24

Doval 内分枝 離心角

(X, Y)



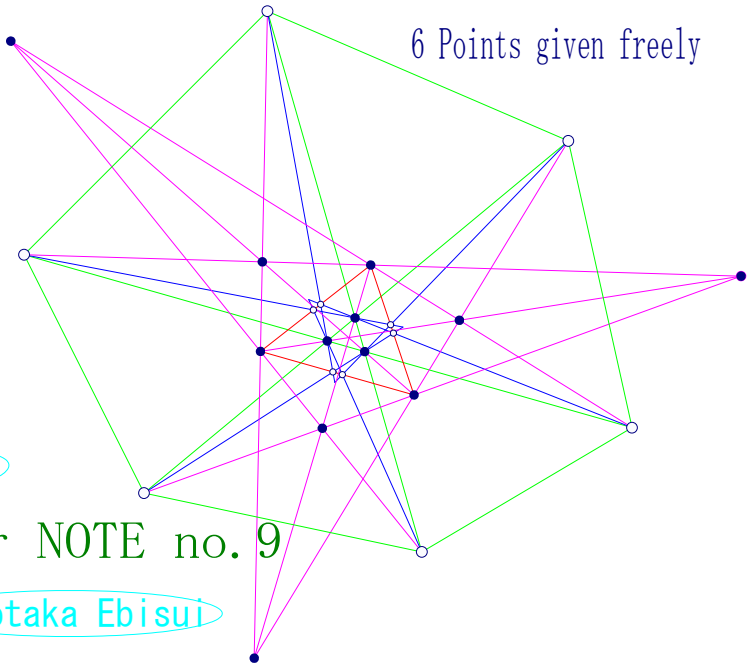
$$X = a \cdot \cos(e) \cdot \cos(h) + t \cdot \cos(2h)$$

$$Y = a \cdot \cos(e) \cdot \sin(h) + t \cdot \sin(2h)$$

e, h の関係未解決

HEXAGON THEOREM

6 Points given freely

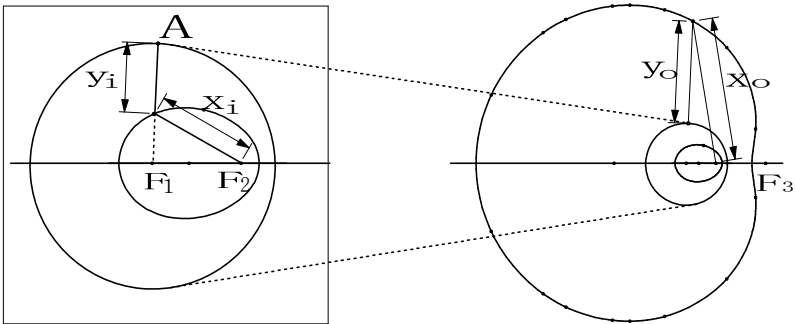


TCGG K-JH

Collinear NOTE no. 9

Hiroataka Ebisui

人は出会う。また、学問も同じである。
概念との出会いである。
そして、概念を一人歩き指すこと
新しいものが巡りくる。ありがとう。



$$x_i : y_i = x_o : y_o = m : n$$



目次

- (1) アメリカ顛(てん)末記** **－5－**
日本に帰ってきた Hotel に閉じこもる
メガネを買いに ベッドの枕
発表に日 杖をついても
- (2) 中国広州顛末記** **－20－**
発展途上の広州 1 パック 50 円の昼飯
二人で食事 ATCM 目的をこなす旅
- (3) アフリカ顛末記** **－30－**
着いた所は、枯れ野だった 前夜祭
any question を繰り返す 民族村の踊り
バラ と 南 十 字 星
- (4) オーストラリア顛末記** **－44－**
パチプロになった板前 エイズでなくエアーズロックへ
カモメちゃんたちと遊ぶ 会議場と続ベッドの枕
- (5) ウクライナ顛末記** **－59－**
レス or マッチ 蒸し暑い夜一人稲光を
with Dear 発表後 美術館へ
打ち上げ
- (5) 台湾顛末記** **－74－**
信号の増えていた台湾 再会と想い
- (7) 中国広州顛末記** **－80－**
マリアさん と ダンス
- 海外遠征 顛末記**
未 熟 な 学 者
- (8) 韓国顛末記** **－87－**
隣の国 韓国高速バス
カムセ (サ) ハムニダ Doval 発表の準備
太陽が微笑んだ

(9) 中国北京顛末記	-98-
、、、 コンピティション	忘れ物
(10) 京都顛末記	-114-
学問の旅路を終えて	-116-
あとがき	

アメリカ顛末記 日本に帰ってきた。

「アメリカ オースチンの思いで聞いて」

「アイよ」

「語れば、長い物語」

「大竹駅に着き、後一駅」

列車の窓から、首を出し

夜風にふれ、感激を味わった。

「岩国に着き帰ると行く前と変わっていた」と思った。

浦島太郎になったのだろうか。不安が走った。

それは、今から考えると、

真夜中の、駅構内の、今までに見たこともない方角の

建物を見たためだった。

「12時半過ぎ」

「35時間以上のアメリカからの帰り」

「もうろうとし、ただ、帰趨本能に助けられて帰ってきた。」

「反転曲面発表の旅」

「とにかく、飛行機に乗り遅れた顛末から」

「朝、オースチンを出る」

「昼過ぎ、テキサスダラス空港に」

「なぜか、一人、時間待ちに、空港内タクシーに乗る」

「イヤ、空港を外から眺めたかった」

「30分で、」

「ハイ。イエロータクシーの運ちゃん」

アメリカ顛末記 Hotelに閉じこもる。

飛行場に、タクシーで着いたら
係員が迎えにきた。
仲間の飛行機が出た後だった。
空港近くのホテルで、明日の便を待つことにした。
不安はない。
とにかく、眠い。
うちから、鍵をかけた。
荷物の整理に取りかかり、全部入れ替え。
置き土産に、すててこを、針と糸に交換した。
食事をしようと思った。
食べるところがどこか分からない。
ホテル内を歩きやっと思つける。
トマトを、ポテトと間違えて注文
まあいいや、少し、空腹は、癒えた。
それにしても、テキサスは広い。
学会のオプションツアーで、
ヒューストン宇宙センター見学
一人で広い園内を歩く
宇宙船の管制センターがのぞけた。

アメリカの子供たちに混じって

英語で質問した。

一人広い園内を見て歩き、みんなと一緒に
帰りのバスに乗れたのが不思議。

バスが、ホテルに向かう途中

核シェルター内を通ったのではないかと、今でも
夜の窓の景色が、不思議だったのを思い出す。

これは、ダラスに着く前の日の夜。

さて、いつ寝て、いつさめたか分からないが、
朝がきた。ホテル内をうろちょろしていると誰かが、
ホテル内の事務所に連れて行ってくれた。

日本人の女の子がいた。

日本行きの飛行機に乗りたいが、
ダラス空港にどうしたら行けるか訪ねた。

そして、案内人に、そのバスに乗せてもらえるように
頼んでもらった。

とにかく、その子が

一人、アメリカで働いている勇気にびっくり

「see you Tommorrow」

を聞いて別れた。

それから後の記憶は、
飛行機の中の記憶だけ

一人で、テキサス大学のポロシャツに
ホテルの針と糸で、大学のロゴの上に
ボタンをつけた。

スチュワーデスが、それを見に来る。

とにかく、意識は、もうろうとしている。

しかし、不安はない。

一日遅れの一人での帰国

早く、東京に着かないかと思うだけ。

しばらくして、スチュワーデスに

飛行機の飛ぶルートの入った地図をねだった。

自分が、どこにいるのか分からないとか

何とかいったのだろう。

安心させるために特別にくれたのだろう。

後一場面しか、そのときのことは、覚えていない。

ヒューストンで買ったガラスのサイコロ

中をのぞくと、鏡面反射して、漫画鏡のようになる。

それを楽しんだ。

サイコロの中に地球儀が、バブルでできている。

150 ドルもした。

これは、その後、日本に着いてから、

日暮里の近くでなくしてします。

ホテルの自分お部屋から、自分で出たのかどうか覚えていない。
閉じこもっていたのを
誰かが連れ出したような半覚醒の状態だった。
ああ、無事、山陽本線大竹コンビナートの夜景が見えたときの
安堵の感激が今も忘れられない。
しかし、まだ、7年後の今も、オースチンの旅は続いている。
線分膨らみ曲面が、世に流布するまでは、
そのたびを続けるつもりだ。

アメリカ顛末記 メガネを買いに

オースチンに着いた翌朝、
一日自由時間があつた。
一人、ホテルで朝食をし
部屋に戻る。
メガネがない。
明日からの会議に困る買いに行かねば。
兎に角、明日の会議があるテキサス大学に
朝、リスが憩うキャンパスに着く。
大学の生協は、どこにあるか分からない。
しばらくすると、女学生が通りかかる。
つたない英語で、生協と、メガネが買えそうなところを聞く。
どうにか、場所を聞き出し、生協に
そこで、大学名の入ったシャツを買い
店員に、メガネが買える場所を聞く。
地図ももってなく、アメリカテキサスの大平原
方角の分かる山もない。
しかし、タクシーを呼んでもらい、ショッピングセンターへ
ここからが大変
ショッピングセンターの眼鏡店で、

度に入ったメガネを買おうとした。

すると、眼科に行けという。どこにあるのかと聞くと、
すぐ近く

早速、眼科にゆく。すると今度は、予約が必要という。

明日までに、メガネがほしい由を言うと、

午後4時しかあいていない。

4時に予約する。

一人で、昼前から4時まで、何処で待とうか。

兎に角、ショッピングセンターをうろつき簡単な食事をとる。

センターの中央に、丸いテーブルと椅子がある。

ここで待つ以外ない、話し相手もいず仕方ない。

メモ用紙も持たず、ホテルを飛び出した。

幸い、絵はがきを買った、店の袋の裏が白い。

それに、3次元配置問題をやり始める。

点の数が、4、5はいいとしても、6となるともう大変。

3時間ぐらい考えたか、どうかは忘れたが、

眼科が気になる。

眼科に行くと30分ぐらいはやめだったが、見てくれた。

さて、英語で、あっち向け、こっち向け、初めての診察。

自分でも、よく英語が分かったと今でも不思議。

しかし、明日からの会議でメガネがないと、

アメリカに発表に来た甲斐がない。

必死だった。

兎に角、処方を書いてもらう。

それを持って、眼鏡屋に。

2, 3 万で、見えるメガネが、手に入ったときは、うれしかった。

こうして、オースチンの第 8 回 ICGG (旧名 ICECGDG)

国際会議遠征の一日は始まった。

アメリカ顛末記 ベッドの枕

オムニホテルは、ミラー社会のホテル
方向感覚が難しい。

私の部屋は、四角い建物の角の部屋
窓から、みると、交差点が見えた。

しかし、そこ以外から、その景色が見えない。

展望ロビーがない。

そのため、方角がわからない。

6日間その部屋にいたため

順路しかわからない感覚になったようだ。

それは、日本の成田から、東京駅に行くときに似ている。

成田空港は、方角がわかりにくい。

話がそれた。

私の部屋のベッドは、ダブルベッドでなく

トリプルベッドだった。

枕が3つも置いてある。

はじめの日どうも気になった。

次の日も

そして3日目か4日目

外から戻ると、可愛いメイドさんが、シーツを交換していた。

「枕一つしか使わないんだけど」

すると、メイドさんは、2つをキャビンに片付けた。

それでやっと、一人で安心して眠れるようになった。

それまでは、誰か二人で寝れたら、
とかそんな発想が湧いて困ったのだ。

それ以来、ホテルのダブルベッドで寝るとき、
枕を一つ片付ける習慣がついた。

人が入ってきても誤解されない。

アメリカで学んだルームマナーだ。

そのとき、メイドさんが、非常階段を使って
屋上まで連れて行ってくれた。

はじめて、オースチンの展望をみた。

うれしかった。

方角は、それでも確かめられなかったが、
角の部屋から、解放された気分になった。

ホテルは、東西南北が分かる、四角い形に限る。

安心して眠れる。

アメリカ顛末記 発表に日

発表前日曜日だったか。

会議の中日の自由日

一人ホテルに閉じこもり

発表の準備

何しろ、反転曲面の式の導出がややこしく

間違っていないか計算

コンピューターで作図し、CG を作り確かめてはいるが、

不安、昼ハンバーグを部屋に取り寄せ、

閉じこもり、計算、

発表が最後にあるときの会議は、開放感がない。

初日にあり、さっさと

会議を抜け出し、市内見物でもできる気分が味わえる方が楽。

しかし、芝居の通りの仕事も大事。

会議に目玉の通りのテーマがあるかどうかは、知らない

しかし、そのときは、最後の日

何とか、発表と質問をクリアし、

おまけに、ポーランドの人が、自己交差曲面の図の前で写真が撮り

たいと言ってきた。

OHPの明るさでは、写真撮影はうまく写らない場合が多い。

しかし、うれしかった。

その後、次回アフリカの主催大学の人が、向こうから、名刺をくれた。

それがきっかけで、国際会議の連チャンが、始まった。

DORYにも、その反転曲面を載せている。

見ていただければ幸いである。

アメリカ顛末記 杖をついても

アメリカ遠征の日

成田に着いた。

足が痛い。

荷物車を杖代わりに、

みんなの後をついて行く。

実は、その当時、

両変形性膝関節症を患っていた。

この痛みでは、アメリカに行けそうもない。

歩けない。

しかし、這ってでも行くんだと決意は固い。

大発見をしたんだと意気込んでいた。

是が非でも、外国で発表するんだと。

父が、死んで、その痛手から、立ち直ってきて初めての

外国での発表

色々なことが起こった。

メガネをなくし、買ったが、最後の日に出てきた。

一人、飛行機に乗り遅れ、一日遅れで

半妄想状態で帰国し、東京駅を彷徨い

助役に捕まり、警察署に行き

お金を持っていることが、わかり
助役に、切符を買ってもらい乗せてもらう始末。
そのとき、アメリカで忘れていた足が痛み
荷物を、ころのついた入れ物に入れ引きずっていた。
上野駅の登りのエスカレーターの非常ボタンを押し、
止めて、一人下った。
ああ、あれから、何年オースチンの旅は終わろうとしている。
NETのおかげで、自分のやったことが寂しいながらも公表できる。
杖を持って行った遠征記
幕が終わろうとしている。
日本人だけで、打ち上げたレストラン
戦争の続いたクロアチアの女流科学者と握手して別れた
等々、旅の思いでは、深く心に残っている。
ありがとう皆さん。

中国広州顛末記 発展途上の広州

ひとり中国の広州へ

ラマヌジャン数の発表に

中国は、むかし、職員旅行で行って、

今回二度目 1999年12月。

中国語も知らず一人で行く

ATCM 99の国際会議

NETで、ホテルの地図を用意し

飛行機から降りた白雲空港

空港で待っていたのは、

タクシーの呼び込み

今日は、中国語が分からないから、ひょっとしたら

警察のやっかいにならないと、

ホテルに着けるかどうか分からないと思った。

しかし、前払いのタクシー(後で分かったが、10倍ぐらいぼられた。

それでも日本のタクシーぐらい。ここは、物価が10分の一)

地図を見せ、渋滞の広州駅近くのホテルに無事ついたときは、何とも言えなかった。

ホテルには、会の学生さんの世話係がいた。

日本語も分かる。ありがたい。色々手伝ってもらって、

ホテルの手続きをする。

さて、国際電話をしようとした。

すると、世話係の人は、

カードを買えという。

兎に角、指示道理にダイヤルする。

しかし、一時間ぐらいかけたがつながらない。

部屋の電話が使えなかったからだが等々あきらめる。

高いカードについた。

私は、ホテルに着くと、国際電話で、母に着いたことを電話することになっている。

アメリカでも何回か電話した。

一人で、海外旅行に行っても、この頃電話できるので、不安はない。

しかし、このときは、初めての外国一人旅

はじめから、うまくいかなかった。

さてさて、これからどうなることか

広州顛末記 1パック50円の昼飯

ホテルから、大学 ATCM99 会場まで、徒歩 3 分
近くて有り難い。

大学内には南国特有の椰子のような木が
何本か植えられている。

ここで、緑の服をきたインド系アメリカ人
S.G 氏に会う。一年ぶりである。

ATCM98 筑波大会の時の、会長以外の唯一の知り合いであった。
うれしい。意気投合し、写真を撮ったりした。

そして、発表後、お互いの OHP 原稿を交換した。

彼の発表は、3 角数と 4 角数が一致する数を見つけ証明することで
あった。

三角数とは、 $1, 1 + 2=3, 1 + 2 + 3=6, 1 + 2 + 3 + 4=10, 1 + 2 + 3 + 4 + 5=15, \dots, 1 + 2 + \dots + 8=9 * 4=6^2$

四角数とは、 $1, 1 + 3 = 2^2$

, $1 + 3 + 5 = 3^2, 1 + 3 + 5 + 7 = 4^2, \dots$

$1+3+5+\dots+9+11=6^2$

一致するのは、1 の次が $6^2=36$

$(n+1) * n/2=m^2$

を解かねばならない。

彼は、これを解き、解を見つけ、証明している。

Mathematica CODE: たった五行

```
a:=Expand [(3+Sqrt [8] )^m] :  
k:=Simplify [Celing[a/2]] :  
n:=(k+1)/2 :  
t:=n(n+1)/2 :  
Table[ {n,t} ,{m,49} ]
```

この CODE で、

```
{[1,1] , [8,36], [49,1225] ,[288,41616],.....}
```

今頃彼は何をしているだろうか。

私が、3, 4, 5 角数が等しくなるときは、どうなるかと帰国して
Email で質問した。

彼は、 n 角数の永遠のテーマと取り組んでいるはずだ。

また会いたいものである。

私の発表は、DORY にもリンクしている

ラマヌジャン数についてである。

私のは、ラマヌジャン数の部分一般解の式を見つけたものである。

このように、数についての発表は、数表が、しっかりしていれば、
それだけで、発表の 8 割は成功だろう。

さて、このとき私は、魚の式を持って行き、その CG も発表した。

それで、私の発表のラマヌジャン数は、影を潜めてしまった。

しかし、数についての発表は誰が見ても、数さえ数えられればいい
ので、図形やその他の証明問題を発表するより楽である。

研究の安定剤的存在が、数についての発見である。

とにかく、彼の OHP のコピーほしければ、進呈します。

立派な内容である。

彼のひげもじゃらの顔が忘れられない。

また会いたいが、音信不通となった。

題からそれたが、屋台の野菜の煮込みのパックご飯と同じくらい
安くてうまい、つまり優しく奥が深いのが、数の話である。

広州顛末記 二人で食事

発表も終わり、オプションツアー
バスで、隣に、通訳などをしてくれた女学生さんが
座り、楽しい会話
今はもう何を話したかは忘れたが
英語と日本語で
兎に角、お礼に食事をしようと誘った。
そして、OK。
二人で、食事
彼女は、まだ若く、接待などの経験はない。
寿司が食べたいという。
大きなホテルの寿司屋に。
二人で、色々話しながら、日本食を
二人で使った費用、彼女の一ヶ月分ぐらいの生活費という。
彼女は、自分の部屋で、チェスでもしようと誘ってくれた。
しかし、こちら、明日の朝が早い。夜更かしができない。
明日、また、空港まで、見送りに来てくれるという。
有り難い。
そして、Hirota さんさようならと言ってくれた。
名前まで覚えてくれた。なのに、私は、彼女の名前を覚えていない。

申し訳ない。こちらからは、さよならも言わず別れた。

心残りである。

しかし、食事だけではあったが、二人だけの時間
後にも先にも、あの時だけである。

彼女が成長して、立派な仕事をしていることを望んでいる。

2004年の広州 I C G G で、また ATCM99 の会場を一人訪ねた。

彼女を本当は誘い出したかったのである。

学生課を訪ねようかと思ったが、休みであった。

彼女にお礼にあげた図、今でも大事に持っていていればいいが。

彼女も、ウーロン茶をお土産にくれた。

僕が、もっと大人で、丈夫な体なら

もっと愉しい経験をさせられたと思う。

ああ、K さんだったか。

いつか、徹夜で語り合える女性に出会いたいものである。

それに近いデートであった。

外国旅行の独特な雰囲気

小さなアバンチュールであった。

広州顛末記 ATCM 目的をこなす旅

今回、 はじめて、ATCM (Asian Tecnology Conference in Mathematics) で、発表。

Abstract を送り、受理され、Fullpaper を、はじめて、html でおくり、兎に角、事務手続きで、大変だった。

Email を何回も交換し、分からないことその他、多々教えてもらった。

旅行会社で航空券を手に入れ、ホテルの地図も手に入れ、やっと安心する準備。

旅行は、初日の宿の確保から、何よりもそれが大事。

そして、時差に負けないだけの心の準備、体力の準備、それらが整わないと、気持ちのよい海外旅行はできない。

また、金銭的にも、旅行にかかる費用の2倍の準備、つまり、2 回分、or 二人分の費用を見積もって初めて、盗難や、不慮の出来事に対処できるのである。

物の本に書いてあった。国際会議遠征以前に3回海外旅行をして、経験したことである。

盗難、食あたり、いたずらタクシー、皆経験した。

まだ、パスポートの紛失はしたことがないが、

前回、アメリカ旅行顛末記のような飛行機に乗り遅れ、
皆さんに心配させたことなど、恥ずかしいことでいっぱい。

しかし、20代から、年に一度ぐらい、海外に行くか、
国際留学していれば、また違った旅や、人生が歩めたはずだ。

50 近くなってからでは、遅い気がする。

老骨に、むち打つ旅にしかならないであろう。

今回、言葉も分からない国に旅できたのも、旅行会社や、
関係各位の援助のおかげと感謝する次第である。

これを読む若い皆さん、海外旅行、ホームステイなど、年取ってから始めては遅い。

また、目的のない旅行もすべきではない。はっきりした目的を持つ
こと。

それは、日程を組むこととは違う。日程は、旅先で、
自由に直せるぐらいの方がおもしろい。スケジュール通りの旅では
なく、目的をこなす旅にしたいものである。

大きな目的を持ってば持つほど楽しい旅はできるし、
困難にあってもそれを遂行できる。

私は、1つの旅行に、多くの目的を持つことには、賛成しかねる。
1つの旅行に1つの目的、それを達成してまた次の旅に出る。

これが、基本ではないかと思う。

1つの目的でも、小さな目的と大きな目的がある。

ただ、避暑にゆくのと、仕事で行くのとでは、大きな違いである。

何も観光旅行が、小さな目標だとは言わない。
自分を成長指す何か大きな目標を持つならそれでいいと思う。
旅は、日常からの脱皮、交通網の発達した時代、
治安や衛生面も発達した時代、
そして、情報網の発達した時代、人にはまねできない、
楽しい目的を持ちたいものである。
国民栄誉賞の冒険家植村直己さんの言葉、
「冒険とは、帰ってくるもの。」
それぞれの人にあった大きな冒険をしたいものである。
それが、その人の人生を豊かなものにするだろう。
広州の旅、目的が、半分達成できた。
人に会う旅は、人にインパクトを与えて帰らねばならない。
これからも旅は続けたい。
その結論めいたことを先に書いたかもしれない。
しかし、これらのことを考えに入れ、2004年までの遠征、振り返ってみたい。

アフリカ顛末記 着いた所は、枯れ野だった。

関空から、シンガポールへ

そして、ヨハネスブルグへ

シンガポールの夜の

空港の待合室にいつの間にか着いていた。

2000年7月25日から8月2日までの旅

真夏の緑一杯の暑い夏、アメリカのオースチンで知り合った

J. P氏に会いにゆく旅が始まった。

シンガポールの次に着いたのが、モーリシャス。

隣に座ったモーリシャスの人に名刺をあげたのを

覚えているぐらいの行き。

飛行機18時間の旅の始まりは、夏の枯れ野が迎えてくれた。

それは、空港の草原である。

ああ、南半球に来たんだ。

一人でアフリカに野生の象を見に来たんだという人

世の中様々な人がいると思った。

そして、帰りの空港で、君はつぶやいた

「アフター you」

なんと心地よい響きだったことか。

旅立つ一週間前に Mobile パソコンを、

ケープタウン行きを諦めた費用で買った。

今回は、卵形線の内外(i,o)分枝の対称軸(S),非対称軸(A)の関係式
 $(A_i/S_i)^2 + (A_o/S_o)^2 = 2$ 発表の旅、

大きな会場での発表

ホテルと大学、ショッピングセンターとオプションツアーの
民族村だけにしか行かなかった遠くて小さな旅

ここにもいくつかの思い出がある。

ああ、早、5年、アフリカの大地は、冬もあり枯れ野もあった。

アフリカ顛末記 前夜祭

アフリカに着いた日の夜だったと思う。

9thICGG の前夜祭

夕食を参加者と食べる。

前回アメリカで名刺をくれなかったなら、ここには来てなかっただろう。

主催校 RAU 大学の先生に会いたくてやってきた。

今はその人とも疎遠。

しかし、そのときは、日本から行った参加者の 31 人の内、私他、2, 3 人だけが、若き主催者の顔を知っていたようだ。

そのとき、彼の写真を撮った。目が赤く映った。

これは後で分かったことだが、写真特有のこと。

彼に写真を送ったが、礼状は来なかった。

ちと淋しい。

会場で、オーストリアの S 先生に再会。

先生は、私の卵形線について、よく分かってきている。

このとき、日本の大学でなく、ウィーンの大学で、卵形線について学位が取れないか打診した。

その返事は、2 年ぐらいかかり、語学の問題があり

難しいだろうと言う話だった。

彼だけが、私の講演に毎回質問してくれる先生。

そういわれて、残念だった。

しかし、その話が聞こえたのか、日本の先生から、
こうすれば、学位が取れるという話があった。

しかし、生意気にも私は、その大学が気に入らなかった。

そうして、とうとう、学位を取る機会を逃したようだ。

この年で、日本の大学で教えるには、学位が必要。

進路が閉ざされている。

しかし、もう、学位をあまり望んではない。

前夜祭の出来事、

前に言った、人に会うために、国際会議に出ること
これで、話がほとんどすんだ。

しかし、N 会長に、行きの飛行機の中で、PC で、
自分のやったことをデモできたのは、うれしかった。

そして、翌日からの会議の途中の昼食時、

S 先生にも PC のデモをした。

学問とは何だろう。

世界には、同じことに興味を持つ人がいる。

しかし、1つの国に限るとそうでもない。

海外に羽ばたきたい。

前夜祭の立食時に僕の夢は半分つぶれた。

しかし、まだまだ、研究は続けている。

そして、わかりやすい卵形線について、
書き物を残すのが、私の役目であろう。
まだ、挫けてはいない。
ただ、寂しさはあるが、

アフリカ 顛末記 any question を繰り返す

T さんが、先生明日、第2会場の chairman よろしくといわれた。
ここに来る前日本に送られてきたプログラムを見てなかったのである。

よく見ると光栄にも、chairman の仕事がある。

初めて、スタッフ側にたった。

さあ大変

講演の時

thankyou chairpersons と始まりの原稿が多い

司会の仕事、壇上で、幸いふたりで司会

前の日に司会するセッションに出る発表者の

経歴を読む。本来なら、abstract を読むべきだが、

時間が無い。自分の役割の3人の紹介をして、

質問がなければ、講演について自分が質問せねばならない。

何しろ初めての仕事、

今でも思うが、よく壇上の席に平気で座っておれたことと思う。

「anyquestion?」(何か質問はありませんかのつもり)を繰り返す。

質問者が何をしゃべっているか分からない。

背中から冷や汗が出る思い。

しかし、平気な顔をして座っていた。

そうせざるを得ない。

やっと **COCHAIR** にバトンタッチ

今回の会議、

自分のセッションの報告までやらねばならなかった。

自分の発表がセッションの最後にあり、その心構えをするより、
私の前の発表者の内容からそぶりまで聞き、見なければならぬ。

大忙しである

しかし、くそ度胸を決め、成り上げた。

ホテルに帰って、

国際電話で、友に司会したと話すと

いつもは不機嫌な応答する友は笑って喜んでくれた。

ああ、アフリカまで来た甲斐があった。

そんな、こんなで、晩餐会の時も、大きな顔をしておれた。

後で、聞いた話だけど、司会したときの英語がへただったので
話す気を無くした日本人講演者がいたという。

それもこれも、日本で司会の練習をしてこなかった、

前の日に気づかされた **CHAIRMAN** の仕事だったからだ。

そうそう、会の役員に、司会の依頼状が来なかったとコメントした。

それでか壇上に座った席になって初めて依頼状が届いた。

しかし、国際会議には、まだまだ、色々なことがある。

自分の講演の司会者を、手伝いの学生を使って、

時間が来ても来ないから、呼びにいかせた経験もある。

あの時の、壇上の席ではと聞かれたら、
棒立ちの状態だったと答えただろう。

学者の集まりとは、こんなものだ。

しかし、役ができたことでなく、させてもらったことに感謝している。

アフリカ 顛末記 民族村の踊り

この旅行の何日目だったか忘れた
民族村に行った。
原住民の人たちも今は町の人
こういうところでしか、槍や楯を持った狩猟風景は
みれない。アフリカのどこかには、
そんなところが、まだ残っていることを願っているが。
太鼓に合わせたショウが始まった。
昼に、焼き肉のシマウマや、ワニの肉を食べた後のこと
客に踊りの輪にはいるように誘ってくる。
僕もいつの間にか、踊っていた。
槍と楯を持ち、なかなか太鼓のリズムに合わない。
元々リズム音痴な私。
しかし、足を上げ、小走りに踊った。
小汗をかいて、自分の席に戻った。
幼稚園ぐらいの広場
今度は、正面の舞台に出るように誘われた。
ダンスを見よう見真似で踊る。
その後占いが行われる。
獣の皮に包んだ、5個ぐらいの骨の小片を転がす。

占い主とともに、ひざまずいてそれを見た。

何か現地語でしゃべっている。

必死で分かろうとした。

そして、自然に片手で指の形を作った。

自然に、小指と人差し指と親指を立てていた右手。

それを見て、占い主は、人差し指とではなく、

小指と親指を合わす動作をした。

後で、それは、子どもと yori を戻せとっているように思えた。

そうすれば、幸せがくるかもしれない。

アフリカの精神科医だったような気がする、

ここでバイトをしている。

民族村の踊りと占い

遠い昔からあった、アフリカの風習

馬鹿にできないと思った。

現代文明が忘れようとしていることがそこにあるような気がする

子どもが腰蓑ををつけて腰をうごかす。

それを見て、ある人が、「あの子食うに困らないね」という。

上手に踊っていた。

太鼓に合わせた踊りだった。

感謝の一日だった。

有り難うアフリカ

アフリカ 顛末記 バラと南十字星

国際会議の閉会式があった日のように思う。

開会式に顧問の SR さんが、開会式の日我倒れ

4次元の話が、聞けなかったのは残念であるが

私たち日本から来たもの皆無事に

おわり、打ち上げの日が来た。

アメリカでもあったが、その日も

街の小さなレストラン店に入った。

大勢で食事をするときいつも何処に座るか気にする自分

先について待つと、今回一緒に来た若い女性が、

自分の前に来た。

今日は愉しい食事になりそうと思った。

何を食べたかよくおぼえてないがアフリカ料理

おいしかったのだろう。

しばらくして、バラの花を売りに来た。

一本買ってやろう、彼女に、赤いバラを。

彼女は、もらったことがないであろう。

そんな生き方のように思えた。

バラを捧げた。

彼女と、北大のポプラ並木をふたりで歩いて

懇親会に行った思い出が重なった。

優しい彼女、
今、彼女の声を思い出した。
柔らかい大きな声である。
有り難うとってくれたかどうか覚えていない。
食事も終わり、若い連中が一足先に帰ることになった。
治安が悪いというから、みんなで歩くことにしていたアフリカの夜
ホテルの前まで来た。
若者たち4、5人
庭に立ち止まり、夜空を見上げた。
誰かが指さした。
その向こうに、
南十字星が光っていた。
この星を見るのが今回のひとつの目的だった。
旅は、人に会うだけでなく、自然を味合うためにあることにも在る
と、今改めて思う。
サザンクロス、みんなで見上げた空
今これを書くとき、空は明けようとしている。
あの時から、イヤ。帰りの空港で「アフタ・ユー」
とって、僕を先に飛行機に乗せてくれた彼女
今頃どうしているだろう。
彼女が、大事にドライフラワーの一輪のバラの花をぶら下げて、

大事そうに持ち帰ってくれたのを思い出す、
旅の思い出。

彼女もまだ、同じ学会のメンバー
一段と成長していることだろう。

オーストラリア顛末記 パチプロになった板前

飛行機は、オーストラリアへ
2001年の冬、ATCM01の旅が始まった。
関空からオーストラリア
ケアンズへ
夜の2時ごろ
隣に座っていた
青年と話が始まった
旅未知なる国へ行く、期待と不安
「仕事何してるの」
「パチプロ」
「一日に20万稼ぐ日も」
自分も1時間で2万円くらいは儲けたことがある。
「ちょっとオオバーだろう」
いくら稼いだと言ったか詳しい金額は忘れた。
おもしろい人と一緒になった。
よく聴いてみると
板前修業人
板前になるには、
5本指がある

洗う

切る剥く

炊く

揚げる

煮る

よくは、覚えていない

しかし、4本まで修行して

京都で五本目修行中

親父に怒鳴られた

たえられなくなって

パチンコに走ったという

「なぜ」

「暖かいものを出さないといけなところを冷たいものを出したから」と言う

あついか冷たいか見た目にはよく分からないが

職人には大切な勤め

おやじに破門されてしまったという

よく聴くと、

自分の親も料理人

静岡でやっている

大阪に出てきて修行を始め

京都料理をマスターしたいというまじめな青年

国に帰って割烹煮を開きたいという

「何処に行くの」

「シドニーに友達がいる」

英語は分からないが

100万円もって一ヶ月の旅をすることにしたという

「大丈夫だろうか、英語分からないが」

「友達が持っている空港にあえるだろうか」

旅の不安が、思わぬ打ち明け話になった。

こちらもひとり旅

自分にとっては未来の国と思っていた

あこがれのオーストラリア

こうして旅は始まった。

やがて、ケアンズに着き

彼と別れた。大丈夫だろうか彼。

ひとりになり、

夜の空港を歩いて

メルボルン行きに乗り換えた。

いよいよ、素数の一般化の外異数発表の旅が始まった。

滑り出しは順調である。

コアラやカンガルーが待っている南国のように思える

南半球への旅

ひとりの道連れから始まった

オーストラリア顛末記 エイズでなく エアーズロックへ

メルボルンの旅行会社で
会議後の1日一泊旅行の
予約が取れたときはうれしかった。
そして、会議のデディゲーターの一人
MISS J嬢を誘った
エアーズ行き
断られてしまったが、一人飛行機に乗った。
彼女とは、2年後に再会。
オーストラリアの大地は、荒涼としていた。
途中から小さな飛行機に乗り目的地に向かう。
隣に母ぐらいの女性が座っていた。
車いす、手はやけどしたのか指が癒着していた。
ああ、僕の母だ。
僕を訪ねて、けがをしてまで、探しに来たのだ。
涙があふれた。
それは、未来の僕と母の姿だった。
旅の感傷が、そういう考えを起こさせた。
無事空港に着き、ホテルに
平屋のロジジふうの部屋に

そして、ヘアの周りを見るとプールがあった。
冬とは言え、大陸中央のここは、
灼熱の太陽が照っていた。
水着を買い、部屋で着替えた。
そして裸足で、道路を横切ろうとした。
あちち、あちち、飛び上がりながら走った。
プールの水につかりやけど寸前の足は癒えた。
プールは深い立ち泳ぎをした。
そこに、手すり階段から黒のハイレグの女性が、
降りてきた。目のやり場に困った。
ああ、大人の世界
彼女はゆったり泳いだ。
格好をつけようと
自分は潜水して見せた。
しかし、年、長くは潜れない。
時は何事もなく過ぎ
部屋に戻った。
又国際電話を掛けたようにも思う。
あすは、日の出を見るツアーに行くことにしたが
朝飯を自分で用意しろと言う。
コンビニを探しに、ブッシュの中を一人歩いた。
赤茶けた土に、背より少し高い木が生えている

エアズロックのホテルだけの村
やっと、無事ロッジに着き
今度は夕飯
食堂がない
売店に、カンガルーの生肉を売っていた、
それをオニオンライスが、焼き肉用に売ってあった。
ミディアムレアーに自分で焼く
バーベキュウである。
ボリューウムはあった。
しかし、何は一人で食べる夕食は、淋しい。
朝、3時頃に起き、バス乗り場に
そこで、今度は感激
オオ十字、小十字のサザンクロスが瞬く
小十字は本物と聞いた。
ああ、南半球にいる。
バスが来て、エアズロックで日の出を
ところが、駐車場で、昨日買った、サンドイッチ
を食べながら待つだけ。
ロックの山の上から、太陽が、登るのだろうと
夢のような景色を夢見ていたが
ロックの朝日による影を見ただけ、

失望に、失望

しかし、ロックの周りの散歩道を
歩くことが観光

oooooooo

やがて、窓から、又荒涼とした大地を見ながら
シドニーに着いた。

赤茶けたお椀のような山は、色あせた。

しかし、一人で、来る前には計画を立ててなかった
小旅行の印象は強烈に残った。

オーストラリア顛末記 カモメちゃんたち と 遊ぶ

空港からバス、イヤ待てよ電車だったか、記憶は定かでない。
とにかく、メルボルン市街地に
やっと着いた。バス停でホテル行きのバスを捜す。
ホテル行きのチケットの使い方を教えてもらったのが、
メルボルンに来て初めての感謝
次に、昼市場のようなところで、サンドイッチを注文
一人いすに座って食べていると、店員がおつりを持ってきた。感謝
さて、市内電車の乗り方が分からない。
載るのは、簡単だが、料金の払方が分からない。
回数券のようなもの、載るたびに買ってしまった。
少し郊外に公園がある。
小高い山になっていた。坂を上り頂上へ
そこで、自分の位置を捜すのに地図を広げた。
ここは何処。たずねて教えてくれた。感謝。
会議の間を縫って、郊外の動物園に
郊外電車、乗ってはおり乗ってはおりしてやっつく。
自然のママというか、草取りなどの手入れが余りしてない。
しかし、園内地図で 迷わずに、コアラとカンガルーを見る。
コアラお昼寝中。
やっと、南半球にいるのだと実感。

動物園の売店で、ポテトフライを昼飯代わりに買い、
木陰で遊ぶ。檻の外に野生のカモメがいて、ポテトをやると食べる。
おもしろくなり、空中に投げてやると、見事キャッチする
座った肩の高さに遊泳するカモメちゃん今頃どうしているだろう。
しばし、カモメちゃんたちと遊んだ。感謝
広いので、全部見ることは断然し、
売店で、コアラとカンガルー伸さし絵付きメモ用紙を買う。
土産ができた。それには、オプションツアーで行ったカンガルー
牧場でカンガルーをスケッチ
そして海岸をスケッチ、4色ボールペンが役に立つ。
ブルーな海、砂浜に憩う。感謝
動物園からの帰り、方向感覚を失い、もう少しで、
市街地行きの反対行きに乗るところだった。
来た道を帰るのも楽ではない。
さて、朝が来た。ホテルを出、四角の道を通り散歩
そして、食事の場で会議に来た人と毎朝会うと落ち着く。
今回も一人旅、冒険はしないが、毎朝、**RMIT** 大学に行くのが仕事
それにしても、静かなきれいな町だったように記憶している。
繁華街にはあまりでなかった。
エアーズ行きのチケットを買いに旅行会社に行ったぐらい
後はコンビニのお世話に

朝の散歩を楽しんだ町でもある。

オーストラリア 顛末記 会議場と 続ベッドの枕

昨日、大学の裏庭で登録をすませた。

今日は初日、開会式

朝、ホテルを出ると、

以前あった人が、電車通りを歩いていた。

あの人の跡をつければ、会場に行ける。

そう直感で思った。

通りを歩いていたのがいつの間にか消えていた。

確かここら辺で消えた。

捜すと、通りに面したビルの扉に

RMIT(ローヤルメルボルンインスチテュートオブテクノロジー)と
書いてある。

入り口だ。

もし、彼がいなかったなら、昨日の通りの違う裏庭に行っていただ
ろう。

そこから、開会式の会場へ、たどり着けるかどうか分からない。

幸運だった。

それから、毎日会場へ

国際会議のはじめにやることは、

会場探し、

次に講演内容

次に時間

次に講演者

何を、何処で、誰が、いつ

をいつも見ていないと、自分にあったものは、見つからない。

大変である、一回限りだから。

見つかって、なぜどのように講演するかが分かって初めて、

会議が自分のものになる。

一回の会議で、1つか2つの、一人かふたりの講演しか身に付かない、

100ぐらい在って。

今回の、講演何を聴いたか、一つも今では残っていない。

ただ、J.P 嬢の顔を覚えていたこと、

カブリというソフトに、チュートリアルで、出会えたこと

これが収穫だった。

別会場に、連れて行ってくれたマレーシアか何処かの女先生に感謝する。

いまでも、RMIT 大学の大会議場で出会った黄色いドレスの J.P 嬢に

詩を送り、エアーズロックに誘って断られたことを、

大事な記憶としてしまっている。

また、電卓教室、英語で話されるのを聞きながら、

ボタンを押していくのが、難しかったことが、

記憶の片隅から出てきた。

習うことの難しさ、電卓なんかやってどうなるという偏見
もっと何事にも素直に成らねば、睡眠不足の旅行中の学習は難しい。
参加者や、アシスタントの生徒の優しさに感謝する。

さて、会議の風景はこれぐらいにして、今回初めて、
参加者の人と夕食を2回偶然できたことに感謝する。
ホテルの前で、偶然食事にでかける、I.C さん夫婦に、声を掛け、
ご一緒していいか聴いたら、いいと言うことで、
メルボルンの食堂街で食事をした。

日本食が食べたいと言われ、
こじんまりとした食事をし話をしながら、
またの再会をと、挨拶して別れた。

もう一人は、日本人、旅先で知り合った同国人との出会いはいいものだ。

夢中でしゃべり夢中で食べた。

色々なことを雑然と語り、意気投合した。

彼は、自分よりベテラン、
散髪をして帰るからと言われ、ホテルに帰る途中で別れた。

先日、広大でも再会した。話す機会がなかったが、
予期したところに予期した人がいるのはうれしい。

4年前の記憶からまだ醒めないが、
外異数講演の旅、

最後に、その定義を

在る自然数の集合を考え、

その中の任意の2つの要素の和がすべて異なり、

もとの集合の数とも異なる集合をいう。

単純な数の集合、外異数についてはこれぐらいにして

このオーストラリア最後の晩に

シドニーのホテルで見つけた

枕の使い方、記憶にとどめておきたい。

ベッドの枕がやわらか過ぎて眠れないなら

備え付けの電話帳か、聖書を枕の下に置くといいことが分かった。

もっと早く気が付いていれば、もっと快適な外国旅行ができたのである。

一人、シドニーのホテルの窓から、町の様子を眺め帰国の途に着いた。

ウクライナ 顛末記 レ ス o r マ ッ チ

ルーブルの朝

今回は、ICGG ウクライナ行き

成田からパリ経由でウクライナキエフに
何時間飛んだか、午前3時頃パリに着く。

ここで乗り換え6時間の待ち合わせ。

ああ、パリ市内が見たい。

一人タクシーで、未明のパリ市内に
エッヘル塔、凱旋門、シャンゼリゼ通り。

朝のタクシーは、すいすい走った。

ルーブル美術館の前で、

朝帰りの男女を見つけた。

ふたりで、朝まで、ロマンスが、ここにもあり

ああ、ここにも男女の営みが、

異国の閑散とした通りが、人間味を帯びた。

こうして、今回の旅行が始まった。

空港に戻り、ウクライナ行きを待つ

1時間半ぐらいのパリ見物

石畳の通り

石造りの家並み

本当にパリに来た。

35時間のキエフへの旅が、今始まろうとしている。

Mysweet に逢い

Natasha と楽しんだ TAJICOID 発表の旅

有り難いことに、行きは予定通りだった。

イヤ、拉致されかかったと思う出来事。

キエフにつきた私は、いつもの手荷物一つで

入国審査を

カモメの水兵さんのような白い制服のキエフ美人

可愛かった。

「レス or マッチ レス "yes" OK」

税関もかねていたのか すぐに通れたのでうれしかった。

出ると、暑いのか旅行社のノーブラで胸ぺちゃのまじめそうな女性が「日本からでしょう。バスで待っていてください。

ホテルまで行きますから」と声をかけてくれ、彼女は後からの客を待つ。

一人早く出た、私は、換金する場所を探しうろうろ

そこで、呼び込みタクシーに捕まる。

バスは捜してもいない。

まあいいや、ひとりタクシーで行こうそう思った。

運賃を先に取りられ、助手席に載せられ

後ろに、相席の婦人

変なタクシー、拉致されるのではと不安に
鞆から、ホテルの地図を出し
ヤ ハチュウ イジオチ ジュゼシ。
ここに行きたいを連発。
婦人を駅に降ろすため、少し回り道
不安で仕方ない。
しかし、どうなろうといいやと思う
無事ホテルに
ロビーで、待つこと。待つこと。
そして、みんなに心配かけさせたと
空港でいなくなったから、
オオ怒られ、情けないなら、こちらの言い分どころではなかった。
次の国際会議場、とうとう破門される原因になった一人歩き
順調と思ったパリから一転、
大変な旅行になってしまう今回は、

ウクライナ顛末記

蒸し暑い夜

一人 稲光を

35時間ぶりにホテルの部屋で
横になれたときのうれしさ、安堵感
そして、眠ろうとする。
しかし、旅の興奮、なかなか寝付かれない。
思えば、ソファが柔らかすぎる。
それで床にカバーと掛け布団を敷き
寝ることに
その日だったか次の日だったか、
クーラーがきかず、窓を開ける。
そうしてたら、夕立が降り出した。
そして、稲光、天候と同じ嵐のような旅だった今回
幾分明るい白夜のような9時頃
一人眠れない夜を過ごす。
いくつもの旅行のホテルの朝の食事風景が
入り交じる。
朝食は一度も欠かしたことはない。
何か、みんなが、ここのホテルは水も出ない
ホテルを変わることにするということだ。
こんな経験は始めて。

そして、新しいホテルに、

私は、安定剤が欠かせない身

時差のあるときは、いつ飲んでいいか分からなくなり、睡眠も浅くなる。

しかし、開会式の会場に

今回は、自慢の焦点が4つ以上の曲線 TAJICOID の話

そして、心配した、TAJICOID の偽物退治。

実は、発表前に TAJICOID のミスありの図がで回っていると

心配した。その、真偽は分からないが、複雑な図、プログラムミスも

起こりうるもの、それを首相官邸に Fax、そのミスバージョンが、出回っている心配をした。

今回は、正しく直し、興味有る図を発表と意気込んだ。

開会式の写真取りも最前列に堂々と座った。

そんな一心で、発表、

しかし、日本人は一人聴いてくれたかかどうかであるが、

卵形線の一般化の長年の夢

ミスの図と、ただしい図を、KPI 大学の学長さんにも、手渡しに行った。

3、4年たつ今では、熱意も冷めたが、そのときは、

世界の CG の頂点に立ったような気持ちであった。

おごれるもの久しからず、

そんな顛末が待っている。

ああ、国を超え、文化を超え、旅する自分

国際電話で、母と連絡を取りながら、気持ちを安定さす自分

旅はこれからも続いた。

ウクライナ 顛末記 with Dear

今日は、会場の中日、会議は休み
一人、会場の図書館に行き明日の発表の準備を
そう思い朝一人でホテルを出る。
地下鉄に、もう何回か乗ったので一人で大丈夫と思いこんだ。
それは間違い、深いところにあるプラットフォーム、ラセンに降りて
行き逆方向に行ってしまった。
しかし、何駅か先で降りても、まともに乗ったと思った。
それからが大変行けども行けども、大学が現れない。
今自分は何処にいるのだろう。
辺りを見回し、サラリーマンふうの人が通りかかった。
有り難い。グジェ、ジュゼッシ。
ここ何処と地図を広げて聴いた。
そうしたら、町のはずれ、
地下鉄に乗るのに30分は歩かないと行けないところまで来てい
た。
大学時代のロシア語が、僕を救ってくれた。
地下鉄に乗る。
そして途中で降りようとする
後ろから、ベルトを引っ張る。

降りては行けないんだ。

キエフの警察の人だったように思う

大学公園前でおろしてくれた。

30分で行けるところを3時間

図書館ではくたびれ、もう準備の元気もない

昼過ぎ早々引き上げた。

今回は、パンクエットに参加できなかった。

スケジュールが記憶できない程時差ボケ

しかし、幸いした。

食堂で、夕方Uご夫妻と食事がともにできた。

アメリカーオースチンでの知り合い

1時間近く英語で話した。

これには後日談がある。

U先生に、手紙を出し

英語で

I enjoyed with Dear と書いてしまった。

奥さんと楽しんだと誤解されたのか、返事が来なかった。

I enjoyed English with you and your dear のつもりだった。

兎に角、英語を楽しんだのが、これが翌日、そらでの発表に役立った。

朝から、色々な人のお世話になり、発表へとこぎ着けた。

今日はぐっすり寝ようと思った。

穴あきのコイン五円玉、ロシア人が喜ぶと学生時代に聞いた話を
思い出し持ってきた。それを誰彼となく配った。

ああ、いつも、独り寝の旅

兎に角、明日は発表

それにしても、Oval でなく Doval について語った夕べ英語の夕べ

そういえば、しゃべるビールと聞くビールの違いがあると思ひこませた

先生のビールの注文であった。

旅に出て、語れる人と出会うのが一番うれしい

あの時の3人での食事は一生忘れないだろう。

ウクライナ 顛末記 発表後 美術館へ



今回、一番うれしかったのは、
無事発表後の疲れをいっぺんに癒してくれた
美術館見物、
バスに乗り、ノースリーブのナターシャ
色気とかawaiiさ入り交じる。
日本大使館横の美術館、ナターシャと離れては一緒に、
一緒になっては離れて見る。
青年と娘、娘が、私の持参金、牛と乳搾りの腕
青年は頷く、そういうシーンを絵にしている。
明るい笑顔の娘、思案顔の青年
さらに、気に入った作品があった。
王と数人の学問顧問を描いた作品
望遠鏡を持った女性顧問

そして、**mathe** の本を持っていた女顧問
サラに、狂女に詰め寄る群集の絵
そして、レンブラントに匹敵する
羊の群れと羊飼いに当たった雨降る前の光線の陰影
ナターシャがだったか、にだったか、どれが好きと聞かれて、聴いて、
これと答えた。
今は覚えていない絵
本当に、絵が、時差ボケから何から何まで、癒してくれた。
嬉しいひととき有り難う。感謝で一杯
美術館の外に人より先に出て待っていると
老婆が緑の服を着た少女をつれ、ものもらいをしていた。
この子を買ってくれとも解釈できる悲しい光景
お金を上げたが、その後、老婆と少女どうなっているだろう。
貧しき人々の悲哀を感じずにはいられなかった。
いたいけない可愛い子。。。。。。
バスは走り、船着き場へ、
ドニエプル川の遊覧、川岸で、泳ぐ人
夕立シャワーを浴び光線が、神秘的にに光った、緑の中の寺院
船上ではしゃいで撮った写真に、**my sweet** が写っていた。
ナターシャが、波止場でだったか、
Ebisui さんスカンジナビアで仕事をしてみないというささやき

甘く残っていた。これは幻聴でないと思う。そして、船の中で、ビール一緒に飲まない。と誘ってくれた。しかし、飲めなかった。

僕は、写真では描けない風景をスケッチ。

一人淋しく乗っていた遊女らしき女性に、その姿を描いたからと、サインをしてもらおう。気の利かない行動をしたようにも思う。

これもみんな、自分の30年の思いを実現した研究発表の後の感慨。明るいお色気たっぷりの、そして優しいガイドナターシャとの出会い

物静かで、会議最終日閉会式の後、偶然廊下で逢い 握手して 別れた若き KPI の女教員

旅の思いでは、未だにノスタルジア

ああ、自分は、何処にいるのだろう。

今日も、旅の中を彷徨う。

自分が若く、勇気があったら、もっと広い世界のために働いていたろう。

自分が、アフターツアーのモスクワ行きを

断念する羽目になったいきさつ。

それは、帰ってきた、安定剤がなくなったためである。

若き日傷つき、薬の世話になりながら、30年、今度の旅に出たが、3、4日分の薬が消え、モスクワ行きを諦めざるをえない淋しい身

それも、国際電話で、母の判断を仰ぐ身
ああ、この愉しい旅も、
現実には代えられない。この世の厳しさ。

TAJICOID の追求も

永遠の謎に包まれて閉じるかもしれない。いやそうではない。

確かに、PRECEEDING の PAPER にした。

そう叫びたい、遠征であった。

ウクライナ 顛末記 打ち上げ

今回も、日本人だけの会議成功の打ち上げをした。

それは、町の古い居酒屋。

テーブルが T の時になっている。

T の頭の部分に、メインの人が座り、足の部分の両側にもそれぞれ座る。

その時、遠いロシアの数学史を思い出した。

昔、ロシアの女性は、海外に出るには、偽装結婚してでないと行けない。

独身ではでられない、数学者コワレフスカヤは、偽装結婚までして、学問を進んだ。

ここの T 型のテーブルが、その隠れた会場のように思えた。

親しい人に見守られ、結婚を、

たまたま、私と、m嬢が、その席の主役の席に座った。

ああ、我々が、夫婦になる式が始まる。

そんな、旅先の妄想、これも遠いロシアの国での感傷

ウオッカをついでもらったが、のまない事に、

そして、料理が運ばれてくる。こっぷに手がいきそうになると

「だめだめ」としかってくれる心地よさ。

ああ、僕たち結婚するのかな、そんな嬉しい雰囲気だった。

oooooooooooo

一人、居酒屋をで、ホテルに

そのとき彼女が、僕と一緒にいたら。。。。。

今回も終わった。

そして明日は帰国の途に、マリョウシュカを買い、

モスクワ断念の旅は、パリ経由で閉じた。

台湾遠征記 信号の増えていた台湾

もう、忘れかけている。

1980年だったと思う。

初めての海外旅行が

台湾

職員旅行だった。

こうして、ここに来た、空港で

ATCM の世話人の出迎え

ああ、台湾は25年ぶり。

どんなに変わっているかが、楽しみで出かけてきた

今回2003年冬は

予想したとおり、信号は増え、町は活気にあふれていた。

ホテルへ行く待ち時間を見て、町へ行く、

すぐUターンして飛行場に

一バス遅れてもみんなに迷惑かかるところが、

ジャストオンタイム。

また会えた。ATCM の仲間、ホテルに着き

ひと休み。近くに、コンビニがあることを確かめる。

台湾ドル、一週間分、3万円を換金

ホテルの周りを散歩して、喫茶店でお茶を飲む一人

これから、数日間ここから、大学会場に通う。

ホテルは、MERRY Xmas の 幕が掛かっていた。

日本は冬、でもこちらは、半袖

1 2月の後半、また、新しい出会いが始まろうとしている。

僕のマドンナ、すっかり成長し、立派な学者になっていた。

メルボルンであった。彼女。

開会式の会場でも、違和感無く、すわり、全体を眺めた。

テレビ局が取材に来ていた。

また、新しい、世界が、僕の前に広がる今回の旅

台湾 顛末記 再会 と 想い

今日から、国際会場

開会式が始まり、

その後、台湾の在る先生に

卵形線の転がり gif を見せたら、

すごく喜んでくれた。

そして、カルジオイドの回転を見せてくれた。

ああ、同じようなことに興味ある人に出会えた。

それだけで、今回の参加は、意味がある。

彼は、僕をコンピュータ室に連れて行き、しきりに説明する

しかし、こちらは、英語がわからない。

名詞をもらったが今では、何処にあるか分からない残念

昼休み、弁当をもらい、みんなが食べている池の畔に

そこに、メルボルンであった、J.P さんが、

自分の目標を書いた、スケッチを見せたら、

ディファレント ウエイ と答えられ

ガックリ来た。

彼女とつきあえたら最高と思いきや。

あっさり、断られた。

彼女は、教育学的数学をやっている。

全く、道が違うわけでもない。

もう諦めた方がいいのに。

まだ思ってる。

私が、飛行機でエアーズロックに行ったとき

車で、エアーズロックまで一人でドライブしたと言っていた。

勇気ある女性だ。

何が言いたいかわからないが

今回の国際会議の晩餐会

アミ族の踊りに飛び入り参加して、踊り、

そして、空しくなって、一人早めに。

会場を出た。

旅の感傷。

そのとき、テーブルが、オーストラリアの彼女と同じだった。

しかし、以前来たときに花連で見たアミ族の踊りをその日思い出した。その踊りの意味深に、浮かれ出たくなり、彼女との交流ができなかった。

ただ、そのとき彼女へと思い、今では、思い出せないもの(卵形線の書類?)をテーブルに置いてきた。

帰国後、連絡を一度取り、手に渡らなかったと聞いた。

しかし、今でも、オプションルツワーで懐かしい故宮博物館にいき、彼女が、気分が悪くなり、歩けなく成っていたその姿等々

彼女の姿は、今でも脳裏から離れられない。

そうそう、一番彼女が、生き生きとしていたのは、
彼女の講演時である。

彼女は、メモ用紙を持ち、ズボンをはいていた。
説明がうまい。

ただただ、見とれていたように思う。

彼女の晴れ舞台。

今でも、彼女の写真を部屋に飾ってある。J.P 嬢
その理知的な顔、また会えるかも知れない
ATCMXX で、昨年も参加していた。

いまだに、想い続けている。

また会いたいと、そして、成長した姿を見たいと。

さて、また、話は飛び、帰国予定日。

帰りの空港で、待ち合わせたつもりで、一人、ある人を待っていた。
何処で会うかも定かでない。

とうとう、飛行機に乗り遅れ、

また、1日遅れで帰る羽目に、

ホテルのロビーで、一人夜を過ごす。

そして空港へ、このときはもう、意識がもうろう

空港のあるところに荷物を置き、ウロウロしていた。

飛行機会社の人に捕まり、いや書くのもイヤになる程分けが分から
ない

福岡に着いたときは、荷物も持たず帰ってきた。

そして、新幹線にも乗れず、タクシーで、

50時間ぐらい寝てない、家に着いたときは、
身一つ。

荷物は、別便で帰ってきたが、

カメラや、書類はなくなっていた。

国際社会に寄付してきたつもりでいる。

むかしは、生きてかえるのも難しい海外旅行
いきてかえれば、無事かえってきたこと。

何が起ころうと、帰ってくることに

それが、勤め、

卵形線転がしの旅は、

きっと、いつか、また始めるだろう。

僕の務めは、まだ終わっては居ない。

人の成長を見るだけでも嬉しい。

TAKE CARE といってくれた彼女

それほど、惚れている J.P 嬢

出会いと想いは、続く

有り難う。

中国広州 顛末記 マリアさん と ダンス

ICGG04 は、僕にとって、最後の国際会議かもしれない

一人、空港を降り、そこで、

H 氏と会い、ふたりで、ホテルに、

会登録と前夜祭が済んだ。

今回は、ホテルが、会議場をかねていた。

のんびりできる。

明日の会議の部屋を確認

愛唱歌を聞き、寝る。

やっとなれた国際会議参加

ポーランドの R 先生と連絡を取り合っていたおかげで

不安もなく参加できた。

それに、5年前に来た ATCM99 の広州から

どれだけ、中国が発展しているか見るのが楽しみだった。

朝、散歩し、道に迷い、ゼスチャーで、方向を聞く。

幸い参加証にホテルの名刺が入っていた。

それがなかったなら、道に迷っているところだった。

ついでに。

そして、発表の日

また、また S 先生に質問され、ブロークンながら

英語で答える。

いつの間にか、オプションツアーのバス内で、横に座ったマリアさんと親しく

こちらだけがそう思ったのか

兎に角、晩餐会で、ダンスを踊った。

習ったこともないダンスを踊る度胸が何処から出たのか分からない。

恥をかかせてしまったと一人、早めに、会場を退く。

悲しいが有り難い経験である。

そして、会場の閉会式後の一日、広州市内を歩き、主催校の広州工業大学に行く。

さらに、一人、ATCM 99の会場に行ってみた。

同じ場所に5年ぶりに一人立ち、確かにここに来たと感慨に浸った。

あの、50円弁当の町角も舗装され、町は、きれいになっていた。

同じ外国の地に2回立つこと、それは、私には、二度と無い経験だ。

自分の歩みが、架空に思えたりするたびの不思議さ。

確信に満ち帰れる有り難さ。

最後の日、R先生に会って、日本の自分の研究室に来て欲しいと言った。

それだけで、終わってしまった事が残念であるが、

自分が、まだまだ、未熟な研究者であること。
世界は広い、そのことを忘れてはならないと思った。
帰りの飛行機が、新空港になり、少し不安であったが、
隣に、大阪大学に留学中のミャンマー人がいて
かれの寝顔が、不思議に思えた。
関空に戻り、新大阪まで来てやっとほっとした。
yummy は、ダンスの土産話を持ってかえってきた。
7年間の僕の国際会議の人生。
本当に、問われるのは、死ぬときか、死後だろう。
兎に角、世界は、一人では、回らない。
多くの学問の同行者によって、支えられ
彼らも、人間としての普通の営みをしている。
そう思わずには居られない。
今回の広州遠征であった。
有り難う。ここまで読んでくれたあなた。

海外遠征 顛末記 未熟な学者

海外遠征記 ICGG ATCM 参加の旅

ATCM の W.C.Y 氏の熱い情熱

ベルギーの I. C 氏

このふたりとの再会だけでも

ATCM への参加は、僕には大切だった。

はじめは、発表に気を取られ

周りへの関心より、数学数学といった感じだった。

それが、今では、裏方の仕事もしたいように思えてきた。

人を、楽しませるほうが、

それぞれの国を代表して会に出るといふ御旗より

大事では無かろうか。

会議でお笑いが出るような講演をしてみたい。

学問の空間は、無限に広い。一分野で優れていても、

全体から見ると、未熟者

S. H 先生に筑波大で、W.C.Y 氏を紹介され 4 回参加した ATCM

私のように、地方で、一人研究しているものにとって、

晴れの舞台でもある。

自分の気持ちが、こうして、自尊と自戒を繰り返し、皆さんの前で、

語れたことに感謝する。

ATCM05 は、韓国で、ICGG06 は、ブラジルで、
それは、まだ未来にある。
未来に生まれるもの。
それは、過去の遺産より、大事だろう。
こうして、7年間を振り返り
会った人々の顔を思い浮かべ、綴ってきた未熟者の旅
まだまだ、続けたくもあり、大変だという思いあり、こうして、
自己を見つめ、世界に自己をアピールしたこと。
それは、小さいことかもしれない。
しかし、自分にとっては、大事な旅だった。
数学、幾何学、コンピュータサイエンス
国際会議という大舞台に立てたこと
いや立つこと、地球家族みんなに博士になってもらいたい。
男女の出会いだけでなく
多くの人間模様が、
これからも続く、
一人の未熟な学者の旅
再び語れることを願ってやまない。
有り難う。みなさん。
書き換え書き換えしたこと
そこに、自分を見つめる機会があったこと
本当に、自分は幸せだと感じる日が、

皆さんに、喜んでもらえる日でもある。

卵形線、いまでは、Doval そして、外異数。魚の式

少しでも、未熟者が発見したこととその周辺を楽しんでもらえたら
うれしい。

有り難う。

まだまだ語りたい。

それが、今の実感

感謝。

追伸

数学の本質は、発見ではない。

概念の一人歩きだ。

$$1 + 1 = 2 \quad 1 + 1 = 0$$

今では、この単純な一見矛盾する式

両方に意味を持たすことができる。

平行線とは何か。

1 + 1 は本当に 2 であるか、

無限と有限その本質への問いは

永遠の学問のテーマ、

本質が意味づけられたとき

概念は、永遠の思考となる。

個人を超え、人類の共通する財産
それをみんなで模索しようではないか。



After Speech

韓国顛末記 隣の国

朝6時に、家を出て、広島空港に急ぐ。

一人、また、国際会議に行ける喜びを感じながら。

これで連続八回目、とうとう自分も学者並になったと思いながら飛行場に着く。

まだ、出発まで2時間、広島空港はこじんまりしている。

それでも、列ができています。

ああ、今日も、新しい出会いが在ろう。そう思いながら、もう少し座っていよう。

小母さん、若い子、みんな、一緒に乗るんだ。

外国旅行のはじめのころは、チェックインも、税関

そして、通関？も順序が分からず不安だった。

免税店の使い方、ご飯の食べ方、そう機内食とのバランス

空港でひととき、これが今では、体になじみ

不安がない。兎に角、飛行機に乗るには、

空港会社のカウンターにまず行くこと

これさえ覚えておけば、そして、フライトナンバー、ゲートナンバー、

どの飛行機に、何処から

いつ乗るか、これを知らねば、どうしようもない。後は、荷物検査、

この頃は上着の中身を出さず、上着を脱いで、
かごの中に入れることにしている。

初めての 冬の外国、寒いと聞き、防寒対策だけは、準備した。そして、

意識過剰であることが、分かった、初めての、冬のソナタ、

広島を飛び立ち、韓国に着いたのが昼前、

今までで、一番短いフライト、おやつのような食事がおいしかった。

さあ、ATCM05 の旅が始まった。その小さな出会いの旅、

手提げ荷物一つで、冬の4泊5日が始まる。

早々言い忘れた、今回は Doval の随伴円について

発表の旅、そして、アンニョンハセヨ と カムサハムニダだけし

か覚えずに行った国への旅

少し冒険気分、でも、落ち着いた出足、カクサハムニダ。

韓国顛末記

韓国高速バス

ATCM05 の旅

++空港に着く

ATCM05 の係員が、待っていてくれた。

英語が話せる。バスの切符買うのを手伝ってくれた。

いよいよ、国際会議の旅始まる。

高速バスに乗り、韓国を南に縦断

3時間、飛行機より長い。

途中、トイレ休憩一回

韓国的高速道路の車線巾、ものすごく狭い

ただし、3車線在る。

みんな運転が上手、しかし、バスの室内

椅子が立派過ぎて、コンピュータが使いづらい。

それにしても長い旅だ。

窓からの風景は、あまり変化無く退屈

隣にひともいず、話もできない。

ただ、寝るだけの室内

早く着かないかな、と思いつける。

ソウルも素通り。

ああ、観光でない今回の旅行の始まりは、

退屈な、バスの旅の長かった印象が
ただただ思い出される。

アンニョンハセヨ。カムサハムニダ。

カムセハムニダ

言葉が通じないことの弊害

バスセンターから、ホテルまでタクシーに乗せてもらった。

今回の参加者三名

ホテルに着き、タクシー料金を払うのに、

いくら払っていいのか分からない。

そして、ワリカンのつもりが意志が通じない。

一人が払い

私は、自分もはらってしまった。

つまり2倍はらったらしい。

それが、うやむや。

外国旅行の不慣れ、いや、気前の良さ

一人は、知らん顔で、自分の分もはらわない。

イヤなやつがいると思った。

兎に角ホテルに着き、今夜寝るところが確保でき安心

子どもじみているが、ハハに国際電話

そして、前夜祭、再会喜び、今は、イヤなやつのため

喜べない。みんなに五木の子守歌を歌い、

有り難うを始めて使うとカムセハムニダ

覚えて使うまでに、つまり、クイックレスポンスになるまで、

3日ぐらいかかった。

兎に角、たいした感動もなく、前夜祭が終わる。

しかし、在る日本人が、僕の五木の子守歌、
はじめは韓国語で唱っているように聞こえたとか、
僕の日本語も大したものだ。

とにかく、歌い終わって、挨拶ができた。韓国語の使い始め
いや2回目、昼に空港で、ウエートレスさんにもカムサハムニダ
間違っ始めて覚える言葉。

今回も旅の顛末、どうなることやら。

Doval 発表の準備

前夜祭早めに切り上げ

部屋に戻る。

明日は自分の発表

原稿など用意していない

PCの中に図が在る。

どういう順序がいいか、いつも苦勞する。

話す内容は、基本的なものを入れ、後は、

例示するようにしよう。

かなり時間をかけ、ついにいい文句が浮かんできた。

英語で、

I am sad because I can not speak about all of my results.

But, I am happy because I can speak about some of my results.

この2つの文をしゃべれば、自分のすべてが、

分かってもらえると思った。

すべてを語れないから哀しい。

しかし、少しでも語れるから幸せ。

自分の Doval の研究、一言では、語れない。

今回も。随伴円について、6ヶ月近く

いしきを持ち続け、この発表にこぎ着けた。

国内で、同様の発表を2回した。

発表のたびに、発見内容が増える。

兎に角、原稿も持たず、事実を淡々と語れるように

その思いが、2つの文で、表されると思った。

そして、やっと、睡眠がとれると思った。

14階のホテルの窓の外には、いつまでも、

イルミネーションに飾られた冬の韓国の町の風景があった。

太陽が微笑んだ

今日は、発表

朝バスに乗る

会場に、ホテルから1時間あまり

隣に座った、グアムからの人と話をする。

物理をやっているとか

兎に角、会場に着く

そして、発表雨のセッション会場に

3人の日本人が続けて発表

最後が私、司会は、偶然、朝のバスのグアムのひと

ひとの発表を聞いていると

自分の発表に雑音になる可能性がある。

外に出ようか、そう思っているともう自分の番

PCをプロジェクターに繋ぐ。

プリントを配る。

計8人の聴衆

一人配り忘れる。

それは、運動幾何ソフトの社長

前に取りに来てくれた。うれしい

しゃべり始めるつたない英語

昨日の晩に用意した happy と sad

順序が逆

しかし、とにかく、

Doval の随伴円について、発表が終わり

質問拍手

ああ、来てよかった。

Doval に3つの焦点があることについて、日本人が、聞いてくれた。

その人、後で分かったことだが、ベスト PAPER 賞を獲得

自分のが気になり、彼の話しについて行けなかった。

しかし、食事を一緒にできた。

ああ、文章がとびとび

でも、この日は、夕日が微笑んだ。

一人、チュウトリアルの会場を後にし、

大学のキャンパスを出たとき、

ああ、今日の発表を一人かみしめ、自分の未来はどうなるのだろう。

と思いつつ、歩く、薄化粧の雪のキャンパス、

枯れ木に、一枚の葉が残っていた。

そこに、夕日が随伴円を抱いて輝いていた。

写真に撮り現れた現象、卵形線と随伴円

自然は、僕に身方してくれた。

国際会議のたび

太陽の橙色の夕日にカムサハムニダ

そして、母に、皆さんに、カムサハムニダ



北京遠征顛末記 学会持参PCが故障

大阪駅に着いた。

ここで前泊をする。

3時からホテルは早い。

喫茶店で、PCを使い発表準備

かれこれ1時間半

突然PCの画面が消える。

どうしよう、コンセントをつけても回復しない

岩国まで帰って、予備のを持ってこようか

それには6時間かかる。体力が持たない。

修理してくれる店はないか。

いろいろ思案、

借りればいい。

とにかく、北京に、予定の飛行機で行くことが肝心、

まあ、ホテルに、

夕食をし、PCをコンセントにつないでみる

。。。。

ああ、ランプがついた。

回復した。

うれしい。

ありがたかった。

バックアップ用のポータブルハードディスクにバックアップ
新大阪にてと名前をつけたフォルダー完成

2時間ぐらいで、やっと明日からの準備完了。

ポスターセッション用の PDF ファイルを作り、

万が一、いけなかつたら、印刷して展示してくださいと、メモし

Email を大会会長宛にした。これで安心

眠りについた。

翌朝、難波経由で、南海を利用し安く関空にと思ってホテルを出た。

しかし、難波で、切符乗り換えに、出札口に切符を忘れ、再び、切符を買う羽目に

慣れないことをするより、新大阪から、JR はるかで行けばよかった。

些細なことだが、この旅は順調でない。

しかし、飛行機離陸、瀬戸内海の船を見て、

2時間後には北京の地に

ああ、早、異国を旅

ATCM2009年コンペティション審査員の役の旅が滑り出した。

ありがとう。飛行機、隣町に行くような旅 始まり始まり。思い出した。

安くでなく、大阪難波で、自分をアピールしたかったという内面は、
咲かずじまい。

北京遠征顛末記. 道に迷って、ホテルに着かない

自分の足で、ホテルに行きたい、空港からタクシーでなく。
それで、地下鉄に乗り、降りて歩いて、
でも、方角違い、地図がうまく読めなかった。
地下鉄の出口の方向変更がうまく読めない。
荷物を持ち、2時間、町をぶらつき、
途中、花屋により、聞いたり、食事をし、聞いたり
やっと、タクシーに乗り、ホテルに、
W.C.Y さんが、ロビーで出迎えてくれた。
みんなが、集まって、いた。
ああ、また、参加できた。うれしさが、こみ上げた。
旧友との再会。
いま、加治屋百合子のバレエの練習、
半端でない、風景、明るい顔、
自分も、主役になる日はいつかな
今回の発表は、本質が、ない
いや点線円幾何の本質を、小さな、雑題で示そうと思った。
でも、ポスターセッションルームは、事前にきれいに用意されてい
なかった。
全体会場の後ろの壁を使うことになった。

道に迷って、ホテルに着くような、
直線的でない、参加となった。

コントゥリビューティッドペーパーを、そして、招待講演ができる
実力を、と思いつつも

夢の話、

我が目的が、何か、国際会議とは何か
本当に、会の裏方になるには、

もっと会う人を大切に、

学生と、ポスター展示作り

手伝ってくれた。

とにかく、昨日とは違って、

3日目にして、準備完了。

北京遠征顛末記。 英語と数学間違える

初日オープニングセレモニー

会場には、400 人を超える超満員、

それを涙した、会長の挨拶、手を目にやる一コマ、いや、目が緩んでいるように見えた。

とにかく、一人一人の、この会場までの道のり。わたしは、

この会場には、またまた、朝の冬の寒い北京師範大学キャンパスを、会場入り口を探し、中国語を、数学棟が、英語棟に読み間違え女子寮の前まで行き、ぐるっと、30 分近くかかって、つく。

上着も着けず、冬の朝の北京、

会場がわからず、凍える思いだった。

セレモニーが終わり、

日本人参加者との会話も終え

ティの時間、今みんなと一緒に、ATCM を始めている。

参加している実感

もっともっと、真剣に、会場国の言葉も覚えてくることを実感した。

本当に実り豊かな、会議参加にするには、

山崎直子さんの、宇宙旅行 4088 日の 10 年間の準備訓練のような、一途の生活が必要に今にして思える。

私も国際会議参加、このとき、もう 15 年目

しかし、その間、毎日毎日語学を欠かさずとか、
そんな精進をしてくるべきだったように思う。

甘い甘い、研究学究生活。

今ここで反省している。一流になれない、凡人の、いや変人の参加、
よく受け入れてくれていることに感謝。

国際会議の、学問に対する、愛がここにも感じられる。

多くの人が集う。様々な人が集う、

アーリーレセプションで、みんなの写真を撮ろうと会場を、巡った。

カメラマンに徹しようと。その決意は、初日だけ。

そのいいわけ、安い夕食をどこでするかかわからず、

いや学食まで行かず、ホテルの室内の常備食クッキーとラーメンで、
夕食を2日済ますと

いう、異常生活。

そのためか、虫歯になったようだった。

会議に出て、数年たち、そのときの至らなさを思い出す。

そのときは、一人で、参加するだけで、精一杯。

北京遠征顛末記 毎朝の食事

国際会議を無事終えるには、毎朝の食事を、同じホテルに泊まる参加者と、顔を合わせてすることが肝心。これができれば、最低限の仕事はできる。

このときも、台湾から来た教授と同じ席で、食事
エビスイさんは、カジュアルだと、服装を見ていう。

卵形線研究センターはどこにあるのかと聞かれたり

私の頭の中にあると答えたり、会話が弾む、

その反面、英語に違和感を感じ、会話には入れず、無口に成り食事
人を楽しませる食事をしたいものだ。

アフリカ遠征のともにした教授のように。

私もあれから、10年近く、年寄りの部類に入っている。今回のメンバーの一人。

食事時の会話一つで、自分の精神状態、睡眠の程度がわかる。

体調管理に対する、朝の食事の役割は大きい。

バイキング形式のありがたさ。

食事旅行は、国際会議には、一回の晩餐会のみで十分。

さあ、食事後は、会場に。

たくさんの講演を十分楽しんで帰りたい、いや帰りたかった、

今にして思えば。

北京遠征顛末記 コンテスト委員長と朝の打ち合わせ

今回、Comtetision(コンテスト)の審査員になっていた。

応募の作品審査のため朝6時半から7時まで、委員長の部屋で、検討、とにかく、楽しくやらせてもらった。

委員長が、窓の外を見よという。

ビルとビルの間、道路の上、15メートルぐらい、

確か、その部屋6階そこから見えた、鳥の大群が飛ぶ様子。

未明、黒鳥の群れ、不気味なほどの数、

しばらく二人で眺めた。今でも、脳裏に焼き付いている。

私も、コンテストに参加、審査員兼応募者

別に、審査を不正にしたわけではない、最終日、公表
充実した毎朝だった。

そうそう、この委員長、台湾の精鋭、高校生を連れてきており、
私が出した、点線円幾何学の問題を解いたと、紹介してくれた。

また、先生の、アニメグラフィックを見せて、いた。

いいな、ちゃんとした弟子がいる。

北京遠征顛末記 コンピティション

最終日、CGの模写コンテスト、
大作が発表された。私は3位
壇上で、発表
今回は2回目、発表以外で、
前に出て、しかも壇上は
アフリカの、司会以来、
上がらずに、つとめることができた。
自分の写真証拠はいらぬが、ない。
発表終了後、賞品を受け取り、
壇上を降り、閉会式を見ていると、ベトナム人が、
私の発表作品の、コピーをくれという。
PC内からフラッシュメモリーにコピーしてあげた。
4次元立方体の正三角形鏡映図であった。
そうそう、壇上で、隣に座った、2位の人が、その人の作品のコピーをくれた。
貴重な、作品である。
とにかく、PCが役だった。他の人が発表の間、PC内の自分のピクチャを眺めたり、バック音楽にと用意した、ベートーベンなどの音楽を聴いて、興奮を治めていた。

ありがとう、PCが故障した話や、北京空港行到着時、初の国際携帯電話に出てくれた母。

無事終わった。

9年前に、英語に必死で、英検2級をとったことが、その、熱心さが、このときまで続いていたら、私は、スターに。いや、この次のATCMマレーシア大会で、スターになったのであるが、悲しいかな、忙しすぎて、病気になり、ドクターストップがかかり、みんなの前に姿が現せなかった。

今その証拠は、2010年のプロシーディング表紙に、私の名前入り作品が、残っている。

ありがとう、皆さん。

うれしく、はかない物語。

北京遠征顛末記 懇親会

きょうは、楽しい懇親会

ホテルの会場に、早、満員

遅れていったら、残っている席が、奥の方の1つ、そこに座った。

ATCM エディター夫妻のそば、そしてこのテーブルには、

南京から来た、若き先生たち

私は、しきりに、何か英語で話をした。

すると、丸テーブルの反対側の、女性が、メモに、E メールアドレスを書き、ここに連絡くださいという。

私が、フラッシュメモリーをあげたのを覚えている

私は、その女性が好きになった。

しかし、その横に、年の同じぐらいの、似合いの男性がいた。

ああ、若き二人を意識した。

以前から、国際会議の懇親会のテーブルで、婚約式をしてと思っていたからである。この若き二人、なぜか、私の話が気に入ったのか、みんなと写真を撮ってくれた。

そうだ、私は、独身だが、女性を意識せず、もう、若き研究者を育てる年になっているのだと、このとき意識した。

そうそう、審査委員長がするワークショップでも、女性が、隣に座った。その子に、いろいろ話しかけ、幾何のおもしろさを、話した

ように思う。この年、アバンチュールを味わうのでなく、女性に巡り会っても、生徒として、教育する年になったのだなと思い、本当に、学会を研究の場として、参加するのがいいのだと思えるようになってきた。これが、次の I C G G での、男女共同研究者の巡り会いとつながった。

そして、今回は、これから、最後の楽しい巡り会いがある。

北京遠征顛末記 忘れ物

最終日、午後、荷物を確認していたら、PCのアダプターコードがない

忘れた。どこへかというところ
コンテスト会場で使ったのが最後。

ああ、残っているだろうか、
全体会の会場に行ってみるともう閉まっていた。
部分会場の校舎に、そして、今回の事務局を探した。

それも片言の英語で、中国人に聞き
かれも、彼女も、英語は習っている。
しかし、とっさには理解できない、
それでも、通じた。

まだ、主催者の教授と女性の事務係がいてくれた。
忘れたよしを言うと、
別の部屋に連れて行ってくれて、ソファーに座ってと中国語で、
私は、全然知らない中国語が理解でき、
座って待っていた。そしたら、お茶を持ってきて、しばらく待って
いてください。

私たちが探してきますと言った。

ありましたありました。

笑みを浮かべて、アダプターを持ってきてくれた。

今回最大の感謝、

かわいい、めがねをかけたその女性といっしょに、写真をとっても
らった、

思わず、おしりに手を回した。

感謝して抱き上げたいぐらいだった。

ああ、一つの名も知れず分かれた出会い。

本当に実り豊かな遠征であった。

北京遠征顛末記 離陸時刻ちょうどに乗る。

昨日の幸運の思い出を胸に、帰途空港へ
しかし、ここで、またまた、ハプニング
北京中央、地下鉄乗り場で、
ちょうど持っていた30元のお金が、
自動販売機か何かの誤操作で10元なくなり
切符が買えなくなった。銀行もなく
ATM機もなく途方に暮れ、大きな声で、
盗まれたとか言ったり、いろいろ、乗り換え、乗車方法を
探した。
駅員に尋ねるが、英語が通じない
切符売り場で、
幾何の図面を買ってくれ、お金がない
もう飛行機に間に合うには、乗らないといけない時間。
そこに、あしながおじさん、10元使いなさいと、黙って出してく
れた。
ああ、泥棒の次は、慈善家
いや泥棒ではなかったのだろう。
しかし切符が変え25元払い
30分前に空港の通関を通過

後は飛行機まで、重い荷物を、引きずり歩いていると、
どこからか、カートを使えばいいのにを言う風が吹いてきた。
それが使え、中国紙幣の残りもなく
土産物を買う時間のなく
途中お茶を飲もうと店に入ろうとして、航空券を見せたら、ゲート
に急ぎなさいと、
チャイナ服のお嬢さんが言う。
ゲート前で手を振って、待っていてくれ、ジャストオンタイム
ああ帰途の飛行機に
そしてまた、窓から、行きに見た、気象観測船のような
船を見て、
一日遅れになれば、病院行きにならないとも限らない、意識状態の
帰りだった。
ありがとう。
北京、そうそう、
私が発見した、大アンテナ座、その星座が、中国の国旗になってい
たのを師範学校の庭の旗に見た。
まだまだ思いでたくさん、こうして、北京顛末記は顛末を迎えた。
学問と感謝、9カ国目は終わる。ありがとう。

京都遠征顛末記 我が、旅路の終点、出発点

ICGG2010 に参加

今回は、日本京都、京大 時計台国際会議場で、
42年前、大学紛争で、東大入試がなくなった年
京大受験予定が、阪大になり
本当に学問がしたかったができにくかった。

60歳還暦で、やっと、あこがれの京大での発表
今回は、ポスターセッションと、

オーラルスピーキング、

ポスターセッションの全体会では、壇上(同じ高さ)に並び、
口頭発表。

だが、そのとき、ヘキサゴンの定理が、盛り込めなかった。

アーリーレセプションの時、

パソコンが、1時間近く行方不明

また、登録時、会費の問題で、

あの、彼女、アフリカの after-you 嬢がしていた受付でもめた。

(後日 詫び状が、彼女から来る。) 滑り足しは、よくない。

しかし、ドイツの W さんとの、再会、

ブラについて発表した、同宿のエジプト、中国、男女共同講演者

との出会い

さらに、関西の先輩に、我が晴れ舞台の日々に会えたこと

そして、中国で、出会った、H.S 氏が、実行委員長に

ああ、キャンパスから、縦虹が見え、

明るい夏の日の大会

本当に、自分のヘキサゴンの定理は、後世に残ると好評をいただき

「卵形線研究センターをインスティテュートにしたら」と、助言
され

こんにち、ウェブ大学を、建てようと、情熱が湧き出した自分を
この大会の参加に、その発端を見るのである。

今回は、女流学者との出会いは、その男女の共同研究者のみ、
いや、顔も知らない I さんに会いたかった。

その人かそのお母さんかは、最後のオプションツアー時に、バス
の隣席で出会い、少し会話した。

それより、

最後の日の同一セッションのヨーロッパの女流学者の講演

何か、世界には、すばらしい研究をしている人がいるのだという実
感。

打ち上げ懇親会の会場の、歓声が、部屋に、反響音を伴って、
響き渡った、みんなの熱狂の思い出

この旅の、終わりに、

学問とは、何かを

今一度考え直してみることにする。

学問の旅を終えて

発見し、発表し、終わった、私の学問人生
普及は、これから、第二の人生で行おうと、決意する。
卵形線の短軸の発見から、もう17年
長い学問の旅路は、峠を越え、
新しい町に着きつつある。
学問とは、新事実の**発見と発表**と分かち合える人との出会い
まるで恋人に会ったような、楽しさ、うれしさ
いつの日も、健康で、
研究が続けられること。
ほんとうに、喜びを分かち合える人との出会い、
世界の中には、きっと、自分の研究成果を
いや、我々の研究成果を、喜び合える場、
国際会議がある。
これなくして、学問は、発展しないだろう。
歴史上、学問論争はつきない。
学問の流行も、難問の解決も、
歴史が見ている。
地球上のみんなが、学問の旅路において出会う抽象概念
その多くの学問の開花、

その花たちが、大きく成長することを願ってやまない。

「学問と感謝」に登場してくれたATCM, ICGGの皆さん、
ありがとう。

おおくは、かたれなくても、いい。

ここにできた「学問と感謝」1」2」3」4」5」6」7」8」
9」10」を大事にしたい。

ありがとう。

あとがき

出合い、M.S 嬢、そして、時間の経過、P C の存在なくしては、
復元しなかつたろう。

皆さんの暖かい愛のたまものである。あらためてお礼を言いたい。

著者紹介

蛭子井博孝

1950年生まれ

大阪大学大学院を出、数学教師、研究員、数学教師

1995年卵形線研究センター創設

現在、フリー数学者

学問と感謝

国際会議10回 その旅路

2011年9月20日発行

発行者 蛭子井博孝

740-0012 岩国市元町4丁目12-10

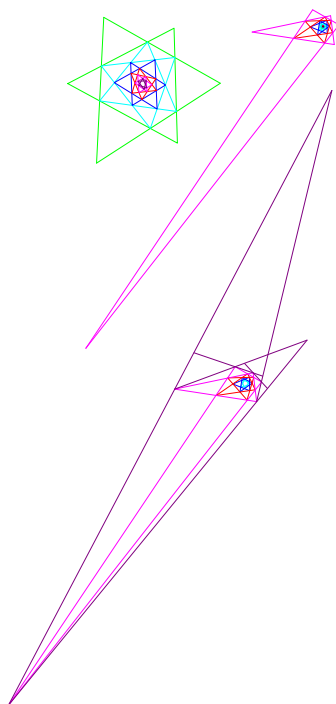
発行 <http://hoval.blogzine.jp/>

印刷製本 ニシキプリント

2014年 ヨーロッパ遠征 行書

蛭子井博孝 6月編著

3書合併本



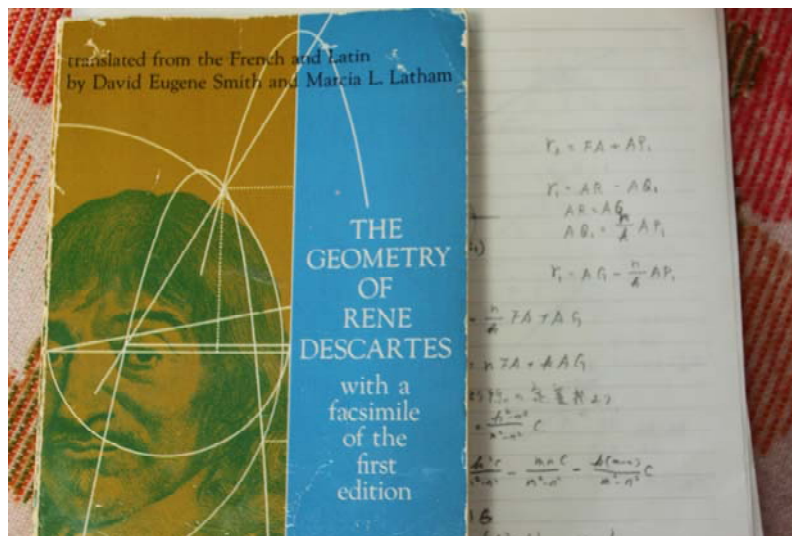
卵形線研究センター

<http://eh85.blogzine.jp/>

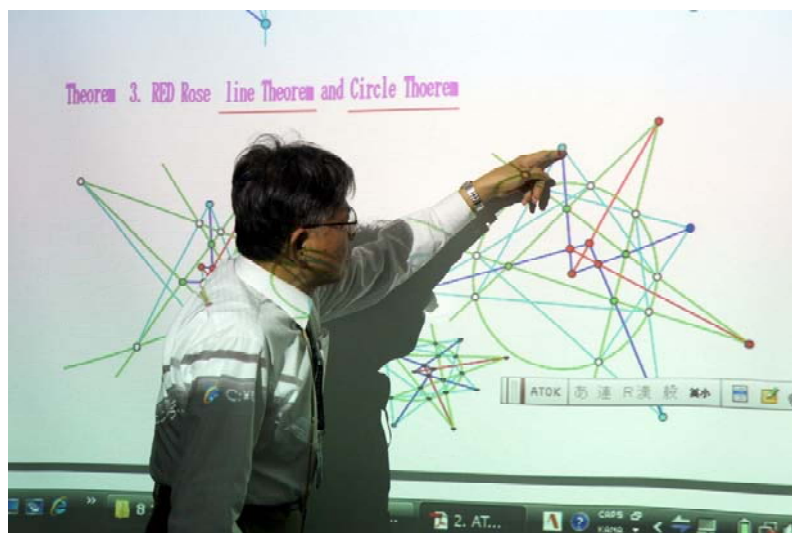
<http://hoval.blogzine.jp/doval/>

Doval with Descartes

Hirotaka EBISUI



Doval-Researches are with Plimitive Geomatics like following picture.



with

はしがきに代えて

続学問と感謝

2010-12年、この三年間の ICGG、ATCM、ICGG の学問の旅を、ここに、つづる。。。。

2010年。。。。京大の構内の庭から夏の縦虹が見えた。。。。

ICGG2010年 京大時計台国際会議場

やっと、会場、受け付へ、てつづき、会費納入確認等々で、いざこざ、待つこと待つこと、。。。。 やっと、参加証をもらう、
夜、前夜祭会場で、パソコンを失うこと 2 時間ぐらい、。。。。 でできて、ほっと。
今回のすべりだしはこんな調子、京都の宿からの景色を写真に取った、

その写真は見つからない、とにかく京都御所が見える京都の街風景

今回のポスターセッションと最後の日のシムソン合同三角形の発表、2日目だったか、
POSTER セッションの口頭発表が壇上で、いや前列にすわり、順を待つ、そのときも、
聴衆者の写真を前列から、。。。。、発表は、的外れ、このとき、今日のヘキサゴンの定
理の歴史的意味がいえる状態であったなら、的外れであるが故に。。。。 .事なきにすん
だのかもしれない。

POSTER セッションの会場のボードにラミネートシートにした図を押しピンで、張る
こと 10 数枚。その中に、ヘキサゴンが、それを、2日目か、オーストリア s 教授に
説明、。。。。、s 教授が私の写真を、私も、教授の写真を、その前で、...彼は、。。。。。「や
つの定理は、歴史に残る」というつぶやきを私の耳に残していった。。。。。

そのとき、彼は、こうも行った、「卵形線研究センターを Institute にしたら」と、この
二言の意味づけ、かれこれ、4年かかっている。

日本人に、彼の明察を納得させるのに、精神病院で3ヶ月闘病、

今。この定理が、ADE 定理として、存在している。

友達や先輩に、京大食堂で、大きな声で、そのとき ADE 定理としてのヘキサゴンを
説明できていたら、今はもう、工科大学ができていただろう。精神病の汚名を返上し、
定理の価値を流布することは、並大抵でない。。。。

ATCM2011 記憶は蘇り、台湾の才女の作品新正多面体の面の数を数えるのに夢中の自分に夢中の自分



さて、いま、また、ICGG について、つづける。

2012 年夏、McgillUniv で、オリガにあい、意気投合、教会を背景に写真



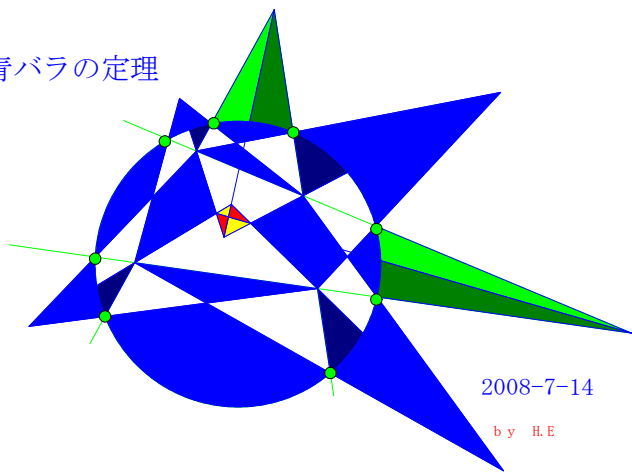
ICGG 宴会場は、ロシア組で、どんな名の子供がほしいとか話が弾んだ、ナターシャとユーリヤ、。。。。、タクシーに乗り、ひとり宿へ。。。

いよいよ、帰郷の日、オリガを空港で、見送りたいかったが、宿の近く、きれいな、モントリオール郊外の海辺に、

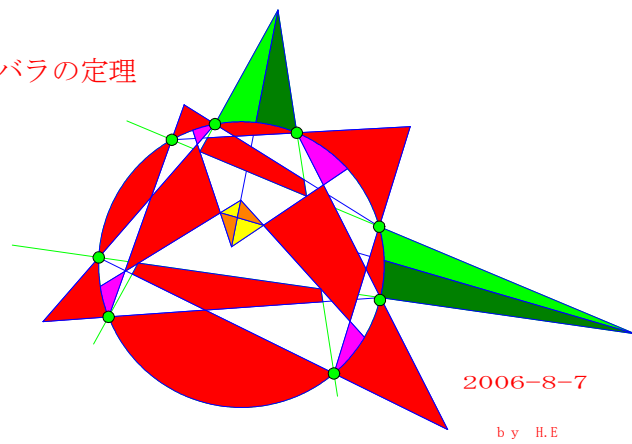
この夏 ICGG で 100 % の再会という君、へ、この本を捧げる。

8点バラの定理

青バラの定理



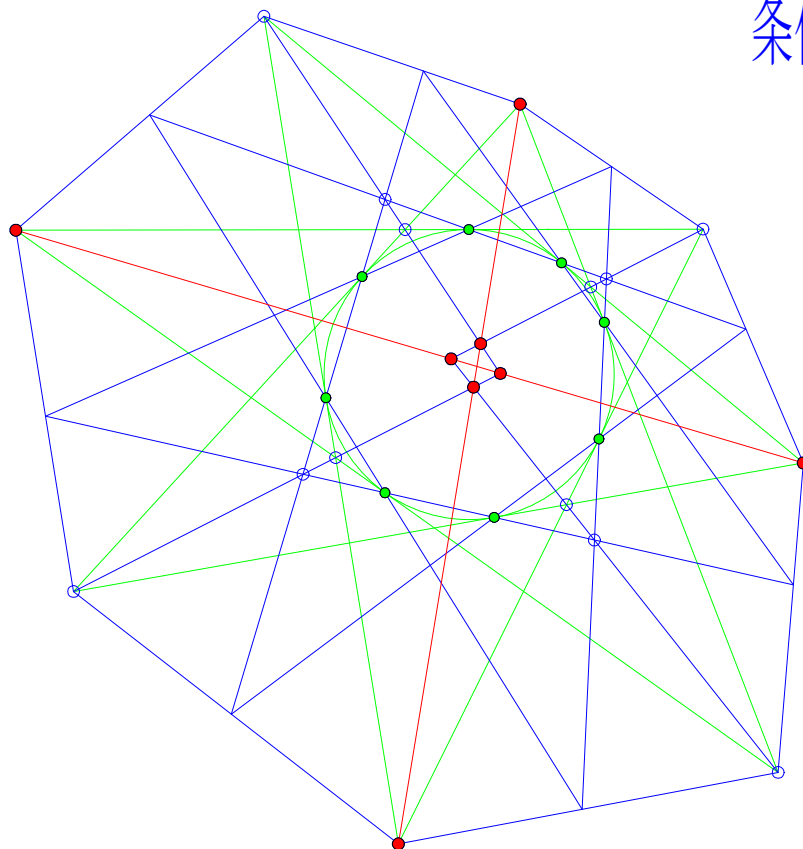
バラの定理



5-2

ひまわりの定理

条件:円周上の8接線



at 1, year old, This figure determined my Destiny

